

高崎佐藤眼科 様



高度化する眼科の医療現場に  
白内障・硝子体手術顕微鏡向けHDカメラシステムを採用

眼科専門のクリニックとして2016年5月に開業された高崎佐藤眼科は、院長の佐藤拓様が群馬大学附属病院眼科に20年間在籍した経験を活かし、「大学病院の診療を身近に快適に」をテーマにかかげられています。

眼科専門医としての知識と経験、技術を生かし、大学病院と変わらない診断と治療を身近に快適に提供できる施設を目指し、高度化する眼科医療に対して最新医療機器を駆使しながら、安心と信頼の医療を提供されています。

池上では、安心と信頼の医療の一助として手術顕微鏡用映像システムに携わらせて頂きました。



白く清潔感を感じる外観

大学病院の診療を身近に快適に

佐藤院長は、20年間在籍された大学病院での経験からそれぞれの機材をお選びになったようです。

「大学病院時代から眼科の手術顕微鏡には、ほぼ池上のカメラがついているというイメージです。カメラの存在も池上通信機の名前もそうした中で知りました。」

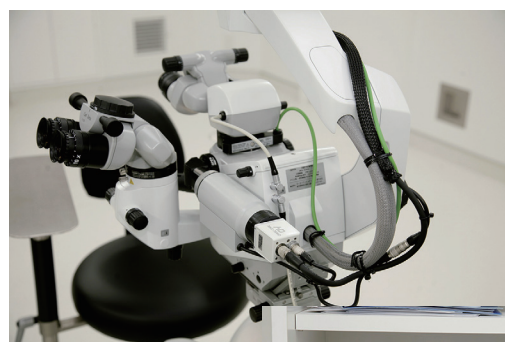


取材にお応え頂いた佐藤拓院長

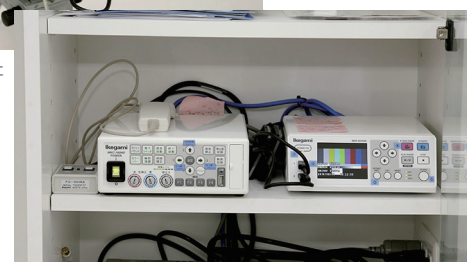
今回のカメラシステムの選定では、病院のテーマにもあるように「大学病院の診療を身近に快適に」という点から最終的に池上カメラを選定いただいたようです。

硝子体手術では、ハイエンドなカメラが必須

「当院では、白内障の手術だけでなく硝子体手術も行っています。大学病院時代にいくつかのカメラを目にしていたのですが、他のカメラですと硝子体手術の様子がまったく映っていませんでした。白内障の手術だけを行うのであれば、ローエンドのカメラでもこだわりはありませんでしたが、硝子体手術の場合、明るいと暗いところを頻繁に変えるのでコントラストがとれるハイエンドなカメラが必要でした。眼科のカメラでは、池上のカメラがトップというイメージを持っていたので、最高の医療に近づけるためにも、最高の画質を出すことに信頼して選択しました。」



顕微鏡に取り付けられたMKC-700HDのカメラヘッド



壁面に設置されたMKC-700HDのCCUとMDR-600HD

## プレゼンにも活用できる高画質映像

「カメラシステム導入後、映像もよく、いい形で運用できています。記録した手術映像は、手術の講演を行う際に使用しています。プレゼンテーションを行う中でプレゼンに耐える品質のよい映像を見せることができます。また、硝子体術者にとっては、カメラのグレードが手術に対して驚くほど影響を及ぼすということを大学病院で知りました。カメラの画質が大きく手術内容を左右するため、顕微鏡を含め、一度よいものを使ってしまうと戻れません。硝子体手術を行う以上は、費用対効果という面においてもグレードの高いカメラは必要なものと考えていますし、池上のカメラに満足しています。」

## 次は自動化へ

「オート化により、スタッフを介さず、手術の開始を自動的に判断し、録画のスタートを行ったり、顕微鏡にカメラ、レコーダを組み込み、録画・停止、明るさ・コントラストなどの操作を術者が自らできれば、よりよい環境になると考えています。今後の池上に期待します。」

## 映像の多様化

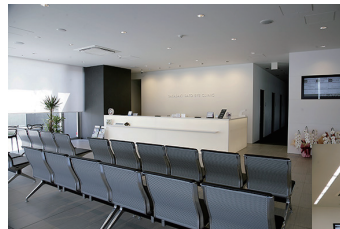
「今は、患者さんに直接映像を見ていただく、時代ではありませんが、将来そういった時代が来た場合でも、いい映像で記録(証拠)を残すことの重要性は、高いと考えています。証拠として映像を残す時代が来た場合、患者様と医師との信頼関係で行う日本の医療のよさが失われ、全て書面と契約の世界になってしまうのは寂しい気持ちはしますが、そういった時代が来つつあると感じています。」



最高レベルの手術室設備



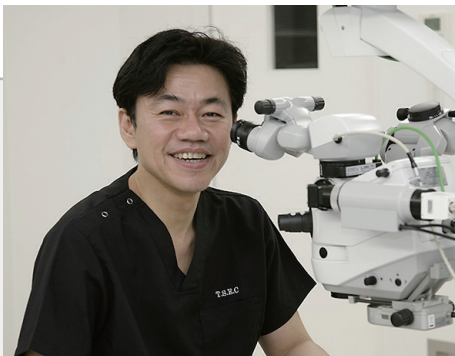
落ち着いたリカバリールーム



清潔感にあふれたロビー



ユニバーサルデザインの院内設備



### 佐藤拓院長略歴

- 20年間 群馬大学眼科学教室に在籍
- 15年間 病棟医長(手術係責任者) ~硝子体手術2300件以上~
- 15年間 加齢黄斑変性専門外来責任者
- 1年間 アメリカ・ニューヨーク留学(2012~2013)

## Ikegami のソリューション提供を支えるハイエンド製品

プログレッシブスキャン対応  
フルHD3CMOSカメラ  
MKC-700HD



- フルHD, S/N56dBの高画質
- 高感度 2000lx / F16(LINE MIX ON時)

メディカルビデオレコーダ  
MDR-600HD



- 高画質フルHD記録
- 優れた操作性